

勝頼公に想いを馳せる大和図書館

「武田家滅亡の地・大和」。武田家最期の戦いが繰り広げられたこの地にある大和図書館は「武田勝頼公」の資料を収集しています。またその資料群や勝頼公の活躍・歴史を知ってもらうため、毎年4月後半の「武田勝頼公祭り」に合わせ「武田勝頼公図書展」を行っています。その展示は祭り会場でもブースを出し、冊子と一緒に見ていただいているだけでなく、この時期に合わせ遠くは四国・香川県、そして近県の方が多く来館されます。勝頼公の評価が見直され多くの書籍が発刊されましたが、大和村時代に地域の文化財や歴史をまとめた冊子などは非常に貴重なものです。勝頼公の時代は非常に短いものではありませんが、時代を超え、この大和の地で彼や家臣たちの想いに触れていただければと思います。(甲州市立図書館 古屋美智留)

甲州市立大和図書館 編



YAMANASHI
PREFECTURAL
LIBRARY



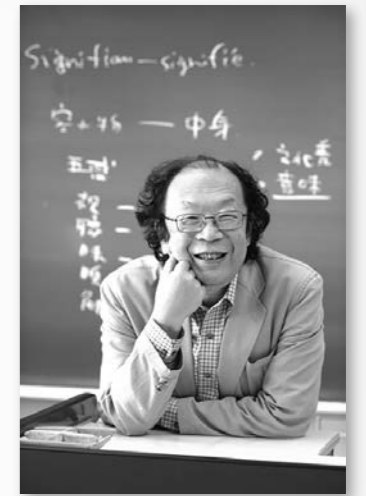
かき氷を食べながら

館長コラム

もう忘れていかもしれないが、この夏は猛暑だった。枕草子に、かき氷は上品であるという文がある。氷にあまづらをかけて食べる、という。あまづらとは、ツタの一種の樹液を煮詰めたもの。当時、甘味料は恐ろしく貴重なものだった。まして、夏の氷。山奥の氷室に貯蔵された雪を大勢の人が都まで運んでくる。清少納言は、水に浮いた氷のかげらのようなものを食べていたのではなかろうか。

20万年の人類の歴史の中で、真夏に氷に蜜をかけて食べられるようになったのは、ここ100年にすぎない。かき氷は、20万年の人類の英知の結晶とでもいうべきものではなかろうか。頭が痛くなったなどと騒ぎながら、あだやおろそかに食べられるものではない。

かき氷が人類の知恵の結晶であると同じように、図書館には20万年の人類が感じ、考えてきたこと言葉の結晶がある。それに触れられる幸せを思う。



撮影/タカオカ邦彦

金一 秀穂

図書館ボランティアの日常から



Vol.10 ことばのひろば

「ことばのひろば」は、世界各国出身の方々ことばや歌を通して国際交流を楽しむ催しです。協力員の新井玲子さんが、小学校で英語の授業が始まった20年程前、「子どもやその親がもっと英語に馴染めるように」と立ち上げ、その後、当館で活動を続けています。海外文化への興味の入り口になればと、今は英語に限らず、アジアやヨーロッパ、アフリカ等々世界各国のみなさんと交流を深めています。

(図書館協力員担当 三森)

Information

2023年度下半期のイベント

10月15日(日) 中高生 ジョイントコンサート

県内の中高生による合唱、吹奏楽、弾き語りなど多彩なジャンルのコンサートです。練習の成果をぜひ目の前で味わってください。

10月19日(木) 図書館でたのしむ 子育てinかいふらり

0～3歳までの未就園児と保護者を対象に、絵本よみかせ、絵本ワークショップを行います。親子で楽しめるイベントです。

ジッポからのひとこと便り



当館の収蔵資料は約102万点! その多くは地下の書庫にあるよ。そこは一年中、本に最適な温度20℃～22℃、湿度55%～65%に保たれた特別な空間だよ。ぜひ探検しに来てね!

入室可能日時: 第2・第4木曜日(閲覧エリア休館日以外) 午後1時～5時
受付: 1階サービスカウンター(小学生以下は保護者同伴)
*図書館利用カードまたはビクターカードが必要です。

この本が好き!

図書館スタッフおすすめの1冊



もの静かな「みち」と、活発な「なつ」。性格も、住んでいる場所も違う少女たちを結びつけたのは、ほんの小さな共通点。爽やかな夏の出会いを描いた作品。

『みちとなつ』 杉田比呂美/さく 福音館書店 2021.6
秋の夜長、絵本で5分間の心の旅



山梨県立図書館
企画振興担当
三森奈緒子

都会に暮らす「みち」はハート型の石を集めるのが好き。海辺に暮らす「なつ」はシーグラスを集めるのが好き。背景の違うふたりの小さな蒐集家が夏休みに海で偶然出会うところで物語は終わります。人との出会いは不思議。ふたりのその後に想いを馳せるのと同時に、ふいに訪れる偶然の出会いはいつもどこかで待っているのかもしれない、とわくわくした気持ちにもなる、大人にも子どもにもおすすめの1冊です。

コロナ禍をきっかけに、絵本を家に借りて帰ることが増えました。眠る前にゆったり絵と文を味わうと、心がひたひたと潤っていくのを感じます。

令和5年度 関東地区公共図書館協議会 研究発表大会開催

令和5年6月28日(水)・29日(木)の2日間、当館イベントスペースにおいて「令和5年度関東地区公共図書館協議会研究発表大会」を開催しました。大会はコロナ禍の影響もあり、令和元年度以来4年ぶりの対面開催です。オンライン視聴も可能なハイブリッド開催としたこともあり、関東甲信越静地区内の図書館職員の他、一般の方も含めて、2日間で延べ371名と、多くの皆様にご参加いただきました。

「地域の記憶～まもる、残す図書館～」を大会テーマに、講演や事例発表、シンポジウムを行いました。基調講演では東京大学名誉教授の根本彰氏より、「図書館が地域アーカイブ機関であること」をテーマに、デジタル化が進む社会において、地域の図書館が今後どのように進んでいくべきなのか、アーカイブの視点からお話をいただきました。また、シンポジウムでは「地域の記憶をどのように守り、残していくのか」と題し、根本氏をコーディネーターに、事例発表者による意見交換が行われました。大会を通じて参加された皆様と、地域の歴史や記憶などの貴重な情報資源を残していくことの意義、重要性について共有することができました。



6月28日：根本彰氏による基調講演の様子



6月29日：登壇者全員が参加したシンポジウムの様子



熱心に聴講する会場参加の皆様



大会の様子はオンラインでも配信

マイクロフィルム資料をご利用ください



マイクロリーダー。マイクロフィルムを映す専用の機器。拡大や白黒反転にも対応しています。



マイクロフィルムのリール。新聞が1面ずつ撮影されていることがわかります。

当館では、県内で発行された新聞を保存しています。貴重な地域資料である地方紙は、後世に残すため保存箱に入れて保存し、閲覧には縮刷版かマイクロフィルムをご利用いただいています。

マイクロフィルムは、元となる新聞を縮小撮影した写真フィルムです。新聞1面を、4センチ×3センチ程度の大きさに縮小しているので、肉眼では読むことができません。専用の機器(リーダー)で映して閲覧します。今年度はリーダーの入替えを行いましたので、これまでよりも大きな画面で快適にご利用いただけるようになりました。

ご覧いただける新聞は、1872(明治5)年7月創刊の「峡中新聞」(後の「山梨日日新聞」)、1879(明治12)年3月創刊の「峡中新報」といった原紙の取扱いが難しいもののほか、全国紙の山梨版といった縮刷版には収録されない紙面等です。

また、現在は山梨県立博物館で所蔵している「甲州文庫」資料の一部もご覧いただけます。

ご予約の方優先となりますので、閲覧をご希望の際には、事前にご連絡をお願いいたします。

(調査サービス担当 山本)



関東大震災から100年

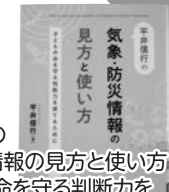
—過去の災害に学ぶ—
令和5年6月13日～9月3日

関東大震災の発生から100年の節目を迎えました。2階の情報サテライト1では、改めて災害や防災について考えるきっかけとなるよう、過去の災害を知り、正しく備えるための資料展示を行いました。過去の災害の記録や写真が掲載されている資料、災害の歴史がわかる資料、災害への備えに関する資料等、合わせて116冊を展示しました。展示資料のリストは当館のホームページに掲載していますので、ご活用ください。

(調査サービス担当 有野)



『地震イツモマニュアル』
地震イツモプロジェクト／編
ポプラ社 2016.8



『平井信行の気象・防災情報の見方と使い方～子どもの命を守る判断力を育てるために～』
平井信行／著 第一法規
2019.9



『図解でわかる14歳からの自然災害と防災』
社会応援ネットワーク／著
太田出版 2022.2

県図書TOPICS

TOPIC1

さいぐさ たかゆき
**三枝昂之 県立文学館長×
金田一秀穂 県立図書館長
スペシャルトーク**

8月11日(金)、「言葉との出会いがもたらした人生の転機」をテーマに、県立文学館と当館の共催による両館長の対談を開催しました。子どもの頃の読書の思い出や、短歌や言語学を学ぶきっかけ、石川啄木とのエピソード、古典的な表現をもとにした言語表現の面白さ、楽しさを掘り下げてお話いただきました。
(企画振興担当 赤池)



TOPIC2

**七夕 願いをこめて
短冊を飾ろう**

例年6月上旬～8月初旬にかけて開催している七夕イベントを本年も開催しました。笹に見立てたボード上に、パンチで星形やハート型に切り抜きデザインした短冊を貼り付けて楽しんでいただける内容です。手軽さからお子様はもちろん、高校生や社会人の方々にもご参加いただけました。
(指定管理者きらっとやまなし共同事業体 野村)



TOPIC3

**子どもの読書
オープンカレッジ(第2回)
を開催しました**

7月12日(水)、保育と人形の会の高田ちとせ氏を講師にお迎えして、「おはなし会に役立つ小さな人形」をテーマに開催しました。前半は小鳥の人形を作り、後半は人形の演じ方や活用方法を学びました。参加者から、対象年齢や組み合わせる絵本の選び方についてなどの質問がありました。
(子ども読書推進担当 山田)



TOPIC4

**かいぶらりシチズンカレッジ
「感じる言葉 オノマトペの世界」**

8月5日(土)の放送大学公開講座は、山梨大学教授の仲本康一郎氏の講演でした。「お寺の鐘がゴーンと鳴った」「今日はサクッと仕事を終わらせよう」等、日本語の擬音語・擬態語の「オノマトペ」の世界を、分類や文法、日本語教育に関する丁寧な解説によって楽しく学ぶことができました。
(企画振興担当 赤池)

